

CCLシングルストランド工法

問合せ先：(株)シー・シー・エル・ジャパン 〒103 東京都中央区八重洲1-5-20 (神鋼鋼線工業内) TEL.03-3272-4677

1. 工法の概要

CCLシングルストランド工法は、CCL工法を構成する4つのシステムの1つである「シングルストランドシステム」のうち、PC鋼より線1本で1ケーブルとするものをいう。

わが国に本工法が登場したのは、昭和46年である。従来はPC鋼棒が使用されていた橋梁の横締めに応用され、PC鋼より線の取扱いが容易であること、緊張装置が自動化されていることなどの特徴を発揮して、次第に広範囲に使用されるようになった。その後、本工法をモデルとするいくつかの工法が開発され、これらの工法を総称して「シングルストランド工法」と呼ばれるようになったものである。

コンクリートの設計基準強度は、24N/mm²以上を対象としている。

2. 緊張容量とPC鋼材

使用するPC鋼より線の規格は、一般ケーブルのCCL工法と同様である。

3. 定着具

定着具は写真-1に示すように、プレートとグリップで構成される。その形状寸法を表-1に示す。グリップの寸法の詳細は一般ケーブルのCCL工法と同様である。

4. シース

シースは通常のワインディングタイプの金属シースを用いる。

5. 備考

緊張装置および緊張方法は、一般ケーブルのCCL工法と同様である。本工法の施工例を写真-2に示す。なお、本工法は日本建築センターの評定を取得している。

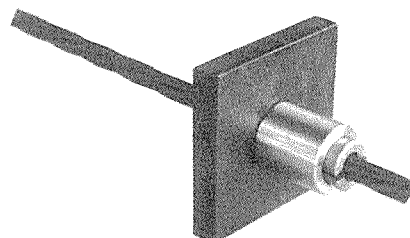


写真-1 定着具

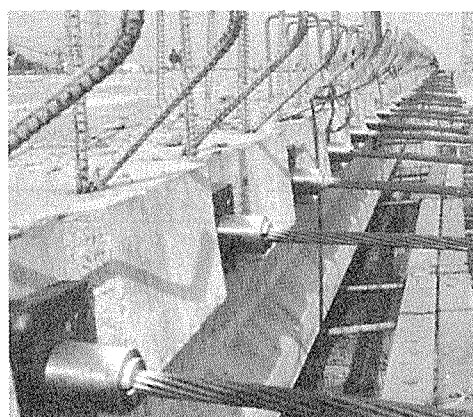


写真-2 施工例(橋梁の横締め)

表-1 定着具の形状寸法

コンクリート 強度の範囲	PC鋼より線 (mm)	呼び名	寸 法(mm)				
			a	b	c	d	e
30N/mm ² 以上	12.7	B-1	80	80	16	37	42
	15.2	B-2	90	90	19	47	45
	17.8	B-3	120	120	25	57	51
	19.3	B-4	120	120	25	65	55
	21.8	B-5	135	135	28	75	65
	25.4	B-6	150	150	32	90	75
	28.6	B-7	165	165	32	100	82
24N/mm ² 以上	12.7	BS-1	90	90	19	37	42
	15.2	BS-2	110	110	19	47	45
	17.8	BS-3	135	135	25	57	51
	19.3	BS-4	145	145	25	65	55
	21.8	BS-5	165	165	28	75	65
	12.7	BR-1	120	70	19	37	42
	15.2	BR-2	150	80	19	47	45
	17.8	BR-3	180	100	25	57	51
	19.3	BR-4	190	110	25	65	55
	21.3	BR-5	220	120	28	75	65

